

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **2000-356792**

(43)Date of publication of application : **26.12.2000**

(51)Int.Cl.

G02F 1/19
G03B 11/00
// G02B 3/14

(21)Application number : **11-169657**

(71)Applicant : **CANON INC**

(22)Date of filing : **16.06.1999**

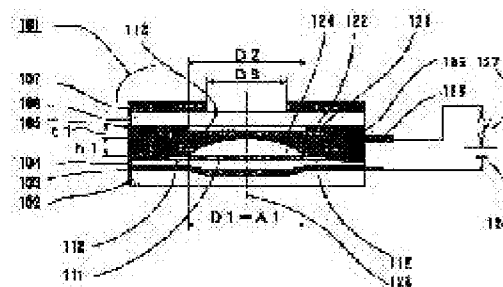
(72)Inventor : **ONUKI ICHIRO
KAWANAMI EIRISHI
OGURA SHIGEO**

(54) OPTICAL ELEMENT AND PHOTOGRAPHING DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an optical element which can be made small in size, which can efficiently control the quantity of transmitted light with a simple structure and which is suitable for a variable ND filter, apodization filter, correction filter for decrease in ambient light quantity or the like, and to provide a photographing device.

SOLUTION: The optical element 101 is used to control the quantity of transmitted light of beams, and is equipped with a conductive or polar first liquid 121 and a second liquid 122 having a different transmittance from that of the first liquid 121, both having substantially equal refractive indices and not mixed with each other. These liquids are sealed in the space formed between first and second substrates while the interface between the first and second liquids forms a part of an almost spherical surface having a specified optical axis. The quantity of transmitted light of the beams passing the device is changed by controlling the output of the voltage to be applied on the first liquid to change the shape of the interface.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of

rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-356792

(P2000-356792A)

(43) 公開日 平成12年12月26日 (2000. 12. 26)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テーマコード^{*}(参考)

G 0 2 F 1/19

G 0 2 F 1/19

2 H 0 8 3

G 0 3 B 11/00

G 0 3 B 11/00

// G 0 2 B 3/14

G 0 2 B 3/14

審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 21 頁)

(21) 出願番号

特願平11-169657

(22) 出願日

平成11年6月16日 (1999. 6. 16)

(71) 出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72) 発明者 大貫 一朗

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
ノン株式会社内

(72) 発明者 川浪 英利子

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
ノン株式会社内

(74) 代理人 100105289

弁理士 長尾 達也

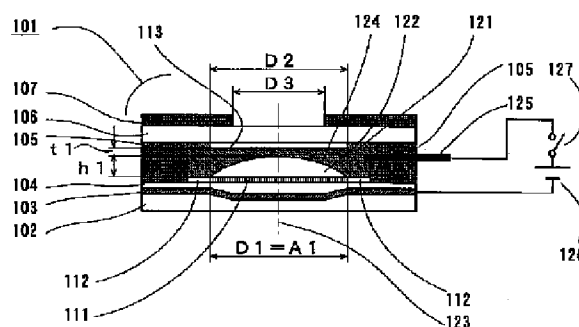
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 光学素子及び撮影装置

(57) 【要約】

【課題】 小型化を図ることができ、簡単な構成で効率よく光透過光量を制御することができ、可変NDフィルタ、アポダイゼーションフィルタ、周辺光量低下を補正するフィルタ等に好適な光学素子および撮影装置を提供すること。

【解決手段】 光束の透過光量を制御する光学素子であって、屈折率が実質的に等しく、互いに混合することのない導電性または有極性の第1の液体及び該第1の液体と異なった透過率を有する第2の液体とを備え、第1と第2の基板間に形成された空間内に、前記第1及び第2の液体の界面が所定の光軸を有する略球面の一部をなした状態で密閉し、前記第1の液体への印加電圧の出力を制御して前記界面形状を変化させることにより、通過する光束の透過光量を変化させる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 光束の透過光量を制御する光学素子であって、屈折率が実質的に等しく、互いに混合することのない導電性または有極性の第 1 の液体及び該第 1 の液体と異なった透過率を有する第 2 の液体とを備え、第 1 と第 2 の基板間に形成された空間内に、前記第 1 及び第 2 の液体の界面が所定の光軸を有する略球面の一部をなした状態で密閉し、前記第 1 の液体への印加電圧の出力を制御して前記界面形状を変化させることにより、通過する光束の透過光量を変化させることを特徴とする光学素子。

【請求項 2】 前記第 1 の液体から絶縁された第 2 の電極と、前記第 1 の液体に導通された第 1 の電極とを有し、前記第 1 の電極と前記第 2 の電極との間の印加電圧を調節することにより、前記第 1 の液体と前記第 2 の液体との界面形状を変化させることを特徴とする請求項 1 に記載の光学素子。

【請求項 3】 前記第 2 の電極が、透明基板である第 2 の基板上に形成された透明電極であることを特徴とする請求項 2 に記載の光学素子。

【請求項 4】 前記第 2 の液体が、前記透明基板に積層された絶縁層に形成された撥水膜上に配されていることを特徴とする請求項 3 に記載の光学素子。

【請求項 5】 前記第 1 の液体の光軸上の光路長と第 2 の液体の光軸上の光路長が、前記印加電圧の出力に応じて変化することを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の光学素子。

【請求項 6】 前記第 1 の液体の単位光路長当たりの光線透過率が、第 2 の液体の単位光路長当たりの光線透過率より小さく、かつ第 1 の液体の前記光軸方向の光路長が前記光軸からの距離に応じて増大することを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の光学素子。

【請求項 7】 前記第 1 の液体の単位光路長当たりの光線透過率が、第 2 の液体の単位光路長当たりの光線透過率より小さく、かつ第 1 の液体の前記光軸上の光路長が印加電圧の出力に応じて、ゼロから有限寸法の間を変化することを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の光学素子。

【請求項 8】 前記第 2 の液体の単位光路長当たりの光線透過率が、第 1 の液体の単位光路長当たりの光線透過率より小さく、かつ第 2 の液体の前記光軸方向の光路長が前記光軸からの距離に応じて減少することを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の光学素子。

【請求項 9】 前記第 1 及び第 2 の液体の少なくとも一方は光吸収性を有することを特徴とする請求項 1～8 のいずれか 1 項に記載の光学素子。

【請求項 10】 被写体像を形成する撮影光学系と、該撮影光学系を通過する光束の透過光量を変化させる光学素子と、前記被写体像を記録する撮像手段とを有する撮影装置において、前記撮影光学系を通過する光束の透過光

量を変化させる光学素子が請求項 1～9 のいずれか 1 項に記載の光学素子によって構成されていることを特徴とする撮影装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、光学系を通過する光束の透過光量を制御する光学素子、いわゆる光学フィルタと、該光学素子を用いた撮影装置に関するものであり、特に、小型化を図ることができ、簡単な構成で効率よく光透過光量を制御することができ、可変NDフィルタ、アポダイゼーションフィルタ、周辺光量低下を補正するフィルタ等に好適な光学素子及び撮影装置の実現を目指すものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、スチルカメラ、ビデオカメラ等の撮影装置に用いられる撮影光学系においては、焦点調節、光量調節、自然なボケ味、像面の光量分布が均一等の機能が要求される。これらの機能のうち、まず光量調節に関しては、一般に複数枚の可動羽根からなる絞り機構が用いられる。しかし、この機械式絞り機構はメカニカル駆動部が必要で機器が大型化し、また開口部を小さくした小絞り状態下では光線の回折が生じて結像した画像の解像力が低下するという欠点がある。

【0003】 このような欠点を解消するため、液晶材料やエレクトロクロミック材料を用いた透過率可変素子、いわゆる可変ND (Neutral Density) フィルタが提案されている。例えば特開平 3-87816 号公報では、透過光の色の偏りを防止したエレクトロクロミック製の光変調素子が提案されている。また、特開平 7-5497 号公報では、溶液中の銀を自在に析出及び溶解することで、可変NDフィルタを実現する技術が開示されている。また、特開平 7-128635 号公報では、濃度可変な液晶フィルタを用いて光電変換装置に入射する光量を調節する技術が開示されている。また、自然なボケ味を実現するための技術として、特開平 9-236740 号公報において、光吸収係数の大きな平凹レンズと光吸収係数の小さな凸平レンズを組み合わせたアポダイゼーションフィルタの技術が開示されている。また、結像面の周辺光量低下（周辺光量落ちともいう）を補正するための技術として、特開平 9-15681 号公報において、中心部ほど濃度が高く、かつ濃度制御可能な液晶製可変NDフィルタ内蔵の光量調節技術が開示されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記した従来例のものにおいては、つぎのような点に問題点を有している。例えば、特開平 3-87816 号公報では、エレクトロクロミック材料の化学変化による濃度変化を利用するため、応答速度が遅い。特開平 7-5497 号公報も同じく、銀塩溶液の化学変化による濃度変化

を利用するため、応答速度が遅い。特開平7-128635号公報では液晶フィルタを用いているが、液晶フィルタは一般に偏光板を必要とし、そのために最大透過率がかなり低くなる。特開平9-236740号公報では、固体レンズの組み合わせでアポダイゼーションフィルタを実現しているため、アポダイゼーション効果が変わえられない。特開平9-15681号公報では、液晶フィルタを用いているため、特開平7-128635号公報と同様に偏光板による透過率低下の欠点がある。

【0005】ところで、液体に電圧を加えると界面張力が変化して界面の移動変形が起こる現象として、エレクトロウエッティング現象が知られている。これは電気毛管現象ともいわれ、図19のように絶縁層502を形成した基板電極501上に、導電性の液滴503があり、この液滴503と基板電極501との間に電圧をかけると、一種のコンデンサを形成し静電エネルギーが蓄積され、この静電エネルギーにより、表面張力の釣り合いが変化し、液滴503が変形するものである(図19

(b))。このようなエレクトロウエッティング現象は、これまで焦点可変レンズ(WO99/18456)、電気毛管ディスプレイシート(特開平09-311643号公報)などにおいて、その利用が図られてきたが、エレクトロウエッティング現象を利用して、光透過量を制御するようにした光学素子あるいは撮影装置は、未だ実現していない。

【0006】そこで、本発明は、上記した課題を解決し、従来のものとは異なる方式の光学素子あるいは撮影装置を構成するため、上記のエレクトロウエッティング現象を利用して、小型化を図ることができ、簡単な構成で効率よく光透過量を制御することができ、可変NDフィルタ、アポダイゼーションフィルタ、周辺光量低下を補正するフィルタ等に好適な光学素子および撮影装置を提供することを目的とするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記課題を達成するため、光学素子及び撮影装置を、つぎの(1)～(10)のように構成したことを特徴とするものである。

(1) 本発明の光学素子は、光束の透過量を制御する光学素子であって、屈折率が実質的に等しく、互いに混合することのない導電性または有極性の第1の液体及び該第1の液体と異なった透過率を有する第2の液体とを備え、第1と第2の基板間に形成された空間内に、前記第1及び第2の液体の界面が所定の光軸を有する略球面の一部をなした状態で密閉し、前記第1の液体への印加電圧の出力を制御して前記界面形状を変化させることにより、通過する光束の透過量を変化させることを特徴としている。

(2) 本発明の光学素子は、前記第1の液体から絶縁された第2の電極と、前記第1の液体に導通された第1の

電極とを有し、前記第1の電極と前記第2の電極との間の印加電圧を調節することにより、前記第1の液体と前記第2の液体との界面形状を変化させることを特徴としている。

(3) 本発明の光学素子は、前記第2の電極が、透明基板である第2の基板上に形成された透明電極であることを特徴としている。

(4) 本発明の光学素子は、前記第2の液体が、前記透明基板に積層された絶縁層に形成された撥水膜上に配されていることを特徴としている。

(5) 本発明の光学素子は、前記第1の液体の光軸上の光路長と第2の液体の光軸上の光路長が、前記印加電圧の出力に応じて変化することを特徴としている。

(6) 本発明の光学素子は、前記第1の液体の単位光路長当たりの光線透過率が、第2の液体の単位光路長当たりの光線透過率より小さく、かつ第1の液体の前記光軸方向の光路長が前記光軸からの距離に応じて増大することを特徴としている。

(7) 本発明の光学素子は、前記第1の液体の単位光路長当たりの光線透過率が、第2の液体の単位光路長当たりの光線透過率より小さく、かつ第1の液体の前記光軸上の光路長が印加電圧の出力に応じて、ゼロから有限寸法の間を変化することを特徴としている。

(8) 本発明の光学素子は、前記第2の液体の単位光路長当たりの光線透過率が、第1の液体の単位光路長当たりの光線透過率より小さく、かつ第2の液体の前記光軸方向の光路長が前記光軸からの距離に応じて減少することを特徴としている。

(9) 本発明の光学素子は、前記第1及び第2の液体の少なくとも一方は光吸収性を有することを特徴としている。

(10) 本発明の撮影装置は、被写体像を形成する撮影光学系と、該撮影光学系を通過する光束の透過量を変化させる光学素子と、前記被写体像を記録する撮像手段とを有する撮影装置において、前記撮影光学系を通過する光束の透過量を変化させる光学素子が、上記した本発明のいずれかの光学素子によって構成されていることを特徴としている。

【0008】

【発明の実施の形態】本実施の形態で開示する光学素子あるいは撮影装置は、上記した構成により可変NDフィルタ、アポダイゼーションフィルタ、周辺光量低下を補正するフィルタ等に好適な光学素子および撮影装置を実現することができる。例えば、上記(1)のように構成したことにより、界面形状の変化によって第1及び第2の液体による光線吸収状態が変化し、通過する光束の透過量を変化させることができ、これによって小型で安価な撮影装置を構成することが可能となる。また、上記(2)のように構成したことにより、光線吸収能率の異なる2つの液体の光路長変化により、通過する光束の透

過光量を変化させることができ、これによってメカニカルな絞り機構が廃止でき、小型で安価な撮影装置を構成することが可能となる。また、上記（３）のように構成したことにより、通過する光束の透過光量が光軸からの距離（以下これを入射高と記す。）に応じて減少し、かつ給電手段の出力に応じて前記光量の減少程度を変化させることができ、これによって効果可変なアポダイゼーションフィルタを実現でき、高品位画像を取得可能な撮影装置を得ることが可能となる。また、上記（４）のように構成したことにより、光線吸収能率の大きな液体の光路長が大きく変化し、光束を透過状態と遮断状態とに切り換えことができ、これによってメカニカルなシャッター機構が廃止でき、小型で安価な撮影装置を構成することが可能となる。また、上記（５）のように構成したことにより、通過する光束の透過光量が光軸からの距離、すなわち入射高に応じて増加し、かつ給電手段の出力に応じて前記光量の増加程度を変化させることができ、これによって撮影光学系の周辺光量低下を軽減でき、高品位画像を取得可能な撮影装置を得ることが可能となる。

【０００９】

【実施例】以下に、本発明の実施例について説明するが、本発明はこれらの実施例によって何ら限定されるものではない。

〔実施例１〕図１～図５は、本発明の実施例１に係わる光学素子について説明するための図である。図１は本発明の実施例１の光学素子の構成を示す断面図である。図１を用いて、本実施例における光学素子の構成と、その作成方法について説明する。１０１は本発明の光学素子全体を示し、１０２は中央に凹部を設けた透明アクリル製の透明基板である。透明基板１０２の上面には、酸化インジウムスズ製の透明電極（ITO）１０３がスパッタリングで形成され、その上面には透明アクリル製の絶縁層１０４が密着して設けられる。

【００１０】絶縁層１０４は、前記透明電極１０３の中央にレプリカ樹脂を滴下し、ガラス板で押しつけて表面を平滑にした後、UV照射を行ない硬化させて形成する。絶縁層１０４の上面には、遮光性を有した円筒型の容器１０５が接着固定され、その上面には透明アクリル製のカバー板１０６が接着固定され、更にその上面には中央部に直径D３の開口を有した絞り板１０７が配置される。以上の構成において、絶縁層１０４、容器１０５及び上カバー１０６で囲まれた所定体積の密閉空間、すなわち液室を有した筐体が形成される。

【００１１】そして、液室の壁面には、以下に示す表面処理が施される。まず、絶縁層１０４の中央上面には、直径D１の範囲内に撥水处理剤が塗布され、撥水膜１１１が形成される。撥水处理剤は、フッ素化合物等が好適である。また、絶縁層１０４上面の直径D１より外側の範囲には、親水处理剤が塗布され、親水膜１１２が形成

される。親水剤は、界面活性剤、親水性ポリマー等が好適である。一方、カバー板１０６の下面には、直径D２の範囲内に親水处理が施され、前記親水膜１１２と同様の性質を有した親水膜１１３が形成される。そしてこれまでに説明したすべての構成部材は、光軸１２３に対して回転対称形状をしている。更に、容器１０５の一部には孔がけられ、ここに棒状電極１２５が挿入され、接着剤で封止されて前記液室の密閉性を維持している。そして透明電極１０３と棒状電極１２５には給電手段１２６が接続され、スイッチ１２７の操作で両電極間に所定の電圧が印加可能になっている。

【００１２】以上の構成の液室には、以下に示す２種類の液体が充填される。まず絶縁層１０４上の撥水膜１１１の上には、第２の液体１２２が所定量だけ滴下される。第２の液体１２２は無色透明で、比重０．８５、室温での屈折率１．３８のシリコンオイルが用いられる。一方液室内の残りの空間には、第１の液体１２１が充填される。第１の液体１２１は、水とエチルアルコールが所定比率で混合され、更に所定量の食塩が加えられた、比重０．８５、室温での屈折率１．３８の導電性の電解液である。更に第１の液体１２１には無彩色の水溶性染料、例えばカーボンブラックや、酸化チタン系の材料が加えられる。すなわち、第１及び第２の液体は、比重と屈折率が実質的に等しく、光線吸収能率が異なり、かつ互いに不溶の液体が選定される。そのため、両液体は界面１２４を形成し、混じりあわずに各々が独立して存在する。

【００１３】次に前記界面の形状について説明する。まず、第１の液体に電圧が印加されていない場合、界面１２４の形状は、両液体間の界面張力、第１の液体と絶縁層１０４上の撥水膜１１１あるいは親水膜１１２との界面張力、第２の液体と絶縁層１０４上の撥水膜１１１あるいは親水膜１１２との界面張力、及び第２の液体の体積で決まる。本実施例においては、第２の液体１２２の材料であるシリコンオイルと、撥水膜１１１との界面張力が相対的に小さくなるように材料選定されている。すなわち両材料間の濡れ性が高いため、第２の液体１２２が形成するレンズ状液滴の外縁は広がる性向を持ち、外縁が撥水膜１１１の塗布領域に一致したところで安定する。すなわち第２の液体が形成するレンズ底面の直径A１は、撥水膜１１１の直径D１に等しい。

【００１４】一方、両液体の比重は前述のごとく等しいため、重力は作用しない。そこで界面１２４は球面になり、その曲率半径及び高さh１は第２の液体１２２の体積により決まる。また、第１の液体の光軸上の厚さはt１になる。一方、スイッチ１２７が閉操作され、第１の液体１２１に電圧が印加されると、電気毛管現象によって第１の液体１２１と親水膜１１２との界面張力が減少し、第１の液体が親水膜１１２と疎水膜１２２の境界を乗り越えて疎水膜１２２内に侵入する。その結果、図２

のごとく、第2の液体が作るレンズの底面の直径はA1からA2に減少し、高さはh1からh2に増加する。また、第1の液体の光軸上の厚さはt2になる。このように第1の液体121への電圧印加によって、2種類の液体の界面張力の釣り合いが変化し、両液体間の界面の形状が変わる。

【0015】ここで、第2の液体は実質上透明であるが、第1の液体は添加された光吸収性材料のために所定の光線吸収率を有する。そこで、絞り板107の開口から光束を入射させると、該光束が通過する第1の液体の光路長に応じた分だけ光線が吸収され、透明基板102から射出する光束の強度は低下する。すなわち光強度の低下率は第1の液体の光軸上の厚さ（図1のt1あるいは図2のt2）に比例するため、給電手段126の電圧制御によって界面124の形状を変えることにより、透過量を自在に変えられる光学素子を実現できる。また、第1及び第2の液体の屈折率を実質的に等しくしているため、入射した光束はその方向を変えずに射出光の強度のみが変えられる。

【0016】つぎに、図3に基づいて、当光学素子を可変NDフィルタとして用いる場合の動作を更に詳しく説明する。図3(a)は、光学素子101に接続された給電手段126の出力電圧が、ゼロあるいは非常に低いV1の場合を示す。この時の界面124の形状は図1に示したものと同等で、第2の液体122が形成するレンズの底面の直径はA1、高さはh1である。また、第1の液体の光軸上の厚さはt1である。L_{IN}は光学素子101の上方から照射され、絞り107の開口部に入射する光束、L_{OUT}は光学素子101から射出される光束である。そして、光束L_{IN}に対するL_{OUT}の比が光学素子101の透過率になるが、第1の液体の光軸上の厚さt1が大きいため、透過率は低くなる。また、射出光束L_{OUT}の光量分布は、光軸からの距離、すなわち入射高が大きいほど光量が少なくなるが、液体122が形成するレンズ底面の直径A1に対して、絞り107の開口直径D3を小さくしているため、射出光束L_{OUT}の光量分布は略均一と見なせる。

【0017】図3(b)は、給電手段126の出力電圧が、V1より大きなV2の場合を示す。この時、第2の液体122が形成するレンズの底面の直径はA2、高さはh2である。また、第1の液体の光軸上の厚さは同図(a)のt1より小さなt2である。そこで光束の透過率は同図(a)の場合より大きくなる。図3(c)は、給電手段126の出力電圧が、V2より更に大きなV3の場合を示す。この時、第2の液体122が形成するレンズの底面の直径はA3に縮まり、界面124の頂上はカバー板106の下面に形成された親水膜113に接触して平坦となる。そして、この平坦部の直径は絞り107の開口部の直径D3に等しいか、D3より大きい。その結果、第1の液体の光軸上の厚さはゼロになるため、

透過率は同図(b)の場合より更に大きくなる。その後、給電手段126の出力電圧を更に上昇させても、絞り107の開口部内側の界面124の形状は変わらないため、当光学素子を可変NDフィルタとして用いた場合の透過率は一定のままである。この時の透過率は、透明基板102、透明電極103、絶縁層104、撥水膜111、第2の液体122、親水膜113、カバー板106の透過率の積で表わされる。

【0018】なお、同図(c)の状態から給電手段126の印加電圧をV1に戻すと、両液体の界面張力が元に戻る。この時、第1の液体121と親水膜113との濡れ性は良く、第2の液体122と親水膜113との濡れ性は悪いから、第2の液体は親水膜113から離れて同図(a)の状態に復帰する。すなわち、当光学素子の界面124の形状変化は、印加電圧の変化に対して可逆である。図4は、光学素子101に印加される電圧に対する光学素子101の光線透過率の関係を表わしたものである。印加電圧の増加に伴い、透過率も上昇し、印加電圧がV3に達したところで透過率は飽和する。

【0019】図5は、光学素子101を撮影装置に応用したものである。本実施例では、撮影装置141は静止画像を撮像手段で電気信号に光電変換し、これをデジタルデータとして記録する、いわゆるデジタルスチルカメラを例として説明する。130は複数のレンズ群からなる撮影光学系で、第1レンズ群131、第2レンズ群132、第3レンズ群133で構成される。第1レンズ群131の光軸方向の進退で、焦点調節がなされる。第2レンズ群132の光軸方向の進退で、ズームがなされる。第3レンズ群133は移動しないリレーレンズ群である。そして、第2レンズ群132と第3レンズ群133の間に光学素子101が配置される。

【0020】撮影光学系130の焦点位置（予定結像面）には、撮像手段134が配置される。これは照射された光エネルギーを電荷に変換する複数の光電変換部、該電荷を蓄える電荷蓄積部、及び該電荷を転送し、外部に送出する電荷転送部からなる2次元CCD等の光電変換手段が用いられる。142は撮影装置全体の動作を制御する中央演算処理装置（以下CPUと略す）で、ROM、RAM、EEPROM、A/D変換機能、D/A変換機能を有する1チップマイコンである。143はCPU142や撮影装置内の各種回路、アクチュエータに電力を供給する電源である。144は光学素子101へ電圧を印加するための給電手段で、図1の給電手段126に相当する。給電手段144は、CPU142からの制御信号に応じて所望の電圧を出力する。145は画像信号処理回路で、光電変換手段135から入力したアナログの画像信号をA/D変換し、AGC制御、ホワイトバランス、γ補正、エッジ強調等の画像処理を施す。

【0021】151は液晶ディスプレイ等の表示器で、光電変換手段134で取得した被写体像や、撮影装置の

動作状況を表示する。152は操作スイッチ群で、CPU142をスリープ状態からプログラム実行状態に起動するメインスイッチ、撮影準備スイッチ、撮影開始スイッチ、シャッター秒時等を設定する撮影条件設定スイッチ等で構成される。153はズーム駆動手段で、第2レンズ群132を光軸方向に進退させるアクチュエータとドライバ回路を含み、撮影者のズームスイッチ操作に応じて変倍動作を行ない、撮影光学系130の焦点距離を変える。154は焦点検出手段で、一眼レフカメラに用いられる位相差検出式焦点検出手段等が好適である。155はフォーカス駆動手段で、第1レンズ群131を光軸方向に進退させるアクチュエータとドライバ回路を含み、前記焦点検出手段154で演算したフォーカス信号に基づいてフォーカス動作を行ない、撮影光学系130の焦点状態を調節する。156はメモリ手段で、撮影された画像信号を記録する。具体的には、着脱可能なPCカード型のフラッシュメモリ等が好適である。

【0022】次に、本実施例における光学素子101の作用を説明する。自然界に存在する被写体の輝度のダイナミックレンジは非常に大きく、これを所定範囲に収めるために、通常は撮影光学系内部に機械式絞り機構を有し、撮影光束の光量を調節している。しかしながら、機械式絞り機構は小さくする事は困難で、かつ絞り開口部が小さい小絞り状態では、絞り羽根端面による光線の回折現象で、被写体像の解像力が低下する。そこで、本実施例のように、光学素子101を前記機械式絞り機構を代用する可変NDフィルタとして用いることで、上記欠点を生ずること無く、撮影光学系を通過する光量を適切に調節することが可能となる。

【0023】図6は、図5に示した撮影装置141が有するCPU142の制御フロー図である。以下、図5及び図6を用いて撮影装置141の制御フローを説明する。ステップS101を経由して、ステップS102では、撮影者によりメインスイッチがオン操作されたか否かを判別し、オン操作されていない時はステップS102に留まる。ステップS102でメインスイッチがオン操作されたと判定されたら、CPU142はスリープ状態から脱してステップS103以降を実行する。ステップS103では、撮影者による撮影条件の設定を受け付ける。具体的には、撮影者は表示器151と操作スイッチ群152を用いて、露出制御モード（シャッター優先AE、プログラムAE等）、オートフォーカスモード（ワンショットAF、コンティニュアスAF等）、ドライブモード（単写、連写等）、画質モード（記録画素数の大小、画像圧縮率の大小等）等を設定する。

【0024】ステップS104では、撮影者による撮影準備スイッチ（フロー図では、SW1と表記）のオン操作がなされたか否かを判別する。オン操作されていない時はステップS103に戻り、撮影条件の設定を繰り返し受け付ける。ステップS104で撮影準備スイッチが

オン操作されたと判定されたら、ステップS104から脱してステップS111以降を実行する。ステップS111では、撮像手段134及び信号処理回路145を駆動して、プレビュー画像を取得する。プレビュー画像とは、最終記録用画像の撮影条件を適切に設定するため、及び撮影者に撮影構図を把握させるために撮影前に取得する画像である。

【0025】ステップS112では、ステップS111で取得したプレビュー画像の受光レベルを認識する。具体的には、撮像手段134が出力す画像信号において、最高、最低及び平均の出力信号レベルを演算し、撮像手段134に入射する光量を認識する。ステップS113では、前記ステップS112で判定した受光量が適正か否かを判別する。そして、当ステップで適正と認識されたら、ステップS114に進む。ステップS114では、ステップS111で取得したプレビュー画像を表示器151に表示する。

【0026】続いて、ステップS115では、焦点検出手段154を用いて撮影光学系130の焦点状態を検出する。続いてステップS116では、フォーカス駆動手段155により、第1レンズ群131を光軸方向に進退させて合焦動作を行なう。その後、ステップS117に進み、撮影スイッチ（フロー図では、SW2と表記）のオン操作がなされたか否かを判別する。オン操作されていない時はステップS111に戻り、プレビュー画像の取得からフォーカス駆動までのステップを繰り返し実行する。一方ステップS113において、前記ステップS112で判定した受光量が適正でないと判別されたら、ステップS121にジャンプする。

【0027】ステップS121では、実際の受光量と適正な受光量を比較し、撮影光学系130内の光学素子101の適正透過率を演算する。ステップS122では、前記ステップS121で演算した適正透過率を得るための制御電圧を演算する。具体的には、CPU142のROMには、図4に示した印加電圧に対する透過率の関係がルックアップテーブルとして記憶されているので、該テーブルを参照し、ステップS121で演算した透過率に対する印加電圧を求める。ステップS123では、前記ステップS122で求めた電圧が光学素子101に印加されるよう、給電手段144の出力電圧を制御する。ステップS123実行後はステップS111に戻り、撮像手段134に入射する光量が適正になるまで、プレビュー画像の取得から給電手段制御までのステップを繰り返し実行する。そして、撮像手段134に入射する光量が適正になると、ステップS113からステップS114に移行する。

【0028】以上のごとく、撮影準備動作を繰り返し実行している最中に、撮影者が撮影スイッチをオン操作すると、ステップS117からステップS131にジャンプする。ステップS131では撮像を行なう。すなわち

撮像手段134上に結像した被写体像を光電変換し、光学像の強度に比例した電荷が各受光部近傍の電荷蓄積部に蓄積される。ステップS132では、ステップS131で蓄積された電荷を電荷転送ラインを介して読み出し、読み出しされたアナログ信号を信号処理回路145に入力させる。ステップS133では、信号処理回路145において、入力したアナログ画像信号をA/D変換し、AGC制御、ホワイトバランス、 γ 補正、エッジ強調等の画像処理を施し、さらに必要に応じてCPU142内に記憶された画像圧縮プログラムでJPEG圧縮等を施す。ステップS134では、上記ステップS133で得られた画像信号をメモリ156に記録し、ステップS135にて撮影動作が終了する。

【0029】上記したように、実施例1によると、
・光学素子への印加電圧を制御することで、光束透過率を所望の値に制御可能なNDフィルタを得ることができる。

・当光学素子を撮影光学系の機械式絞り機構の代わりに用いることで、絞り羽根や絞り開口制御機構等のメカニカル手段を廃止でき、かつ撮像手段に入射する光量を連続的に制御できるため、撮影装置の小型化及び高性能化が達成できる。等の点で優れた効果を奏することが可能な光学素子あるいは撮影装置を実現することができる。

【0030】〔実施例2〕前述の実施例1においては透過率可変な光学素子を可変NDフィルタを構成した例について説明したが、実施例2は、光学素子へ入射する光束の入射高（光軸からの距離）に応じて透過率が漸減し、かつ該光学素子への印加電圧を制御することで、透過率分布を所望の値に制御可能な透過率分布可変フィルタを構成した例である。図7～図10は本発明の実施例2について説明するための図であり、図7は本実施例における光学素子を透過率分布可変フィルタとして用いる場合の動作を詳しく説明するための図である。本実施例においては、光学素子201が有する絞り板207の開口部の直径D4は、実施例1の絞り板107の開口部直径D3より大きく設定され、それ以外の部材はすべて同一機能、同一寸法を有する。従って同一部分は同一の番号にて示し、重複説明は省略する。

【0031】図7（a）は、光学素子201に接続された給電手段126の出力電圧が、ゼロあるいは非常に低いV1の場合を示す。この時の界面124の形状は図3（a）と同一で、第2の液体122が形成するレンズの底面の直径はA1、高さはh1である。また、第1の液体の光軸上の厚さはt1である。L_{IN}は光学素子201の上方から照射され、絞り207の開口部に入射する光束、L_{OUT}は光学素子201から射出される光束である。そして、本実施例では、液体122が形成するレンズ底面の直径A1が、実施例1と同一なのに対して、絞り207の開口径D4は実施例1の開口径D3よりも大きくしているので、射出光束L_{OUT}の光量分布は均一に

はならず、光軸123から離れるに従って透過光量はかなり減少する。

【0032】図7（b）は、給電手段126の出力電圧が、V1より大きなV2の場合を示す。この時、第2の液体122が形成するレンズの底面の直径はA2、高さはh2であり、透過光量平均値は同図（a）より大きくなると共に、透過光量の不均一性も拡大する。図3

（c）は、給電手段126の出力電圧が、V2より更に大きなV3の場合を示す。この時、第2の液体122が形成するレンズの底面の直径はA3に縮まり、界面124の頂上はカバー板106の下面に形成された親水膜113に接触して平坦となる。そして、この平坦部の直径は絞り207の開口部の直径D4よりは小さい。その結果、透過率は該平坦部の内側領域は均一になり、外側領域では光軸からの距離に応じて漸減する。この時の入射高ゼロにおける透過率は、透明基板102、透明電極103、絶縁層104、撥水膜111、第2の液体122、親水膜113、カバー板106の透過率の積で表わされる。

【0033】図8は、給電手段126から光学素子201に印加される電圧をパラメータとして、光学素子201に入射する光束の入射高（光軸123からの距離）に対する透過率分布の関係を表わしたものである。印加電圧の増加に伴い、平均透過率が増加すると共に、入射高に応じて透過率が漸減する透過率カーブの傾き絶対値も増加する。

【0034】図9は、光学素子201を撮影装置に応用したものである。本実施例では、撮影装置241は静止画像を銀塩フィルムに露光する、いわゆる銀塩スチルカメラを例として説明する。230は複数のレンズ群からなる撮影光学系で、第1レンズ群231、第2レンズ群232、第3レンズ群233で構成され、それぞれの機能は図5の実施例1の撮影装置141における各レンズ群131、132、133と同一である。そして、第2レンズ群232と第3レンズ群233の間に光学素子201が配置され、その後方にはステップモータを駆動源とした機械式絞り機構234が配置される。撮影光学系230の焦点位置には、銀塩フィルム236が配置され、その直前にはフォーカルプレキシッタ235が配置される。

【0035】242は撮影装置全体の動作を制御するCPUで、ROM、RAM、EEPROM、A/D、D/A変換機能を有する1チップマイコンである。電源143、給電手段144は実施例1と同一のもので、同一符号で表わす。245はメカニカルチャージ手段で、前述のフォーカルプレキシッタ235の駆動パネをチャージする機構、及びフィルム236の巻き上げ巻戻し機構からなる。246は、被写体の観察用画像を形成するためのファインダ光学系で、フォーカシングスクリーン、ペンタダハプリズム、接眼レンズで構成される。2

47は第3レンズ群233とフォーカルプレキシッタ235の間に配置されたクイックリターンミラーで、前記フィルム236とファインダ光学系246への光束の切り換えを行なう可動ミラーと、該ミラーを駆動するアクチュエータで構成される。

【0036】251は液晶ディスプレイ等の表示器で、撮影装置の動作状況を表示する。252は操作スイッチ群で、CPU242をスリープ状態からプログラム実行状態に起動するメインスイッチ、撮影準備スイッチ、撮影開始スイッチ、シャッター秒時等を設定する撮影条件設定スイッチ等で構成される。また、後述するアボダイゼイション効果入力スイッチを有する点が、実施例1と異なる。ズーム駆動手段153、焦点検出手段154、フォーカス駆動手段155は実施例1と同一の機能を有するため、同一符号で示す。256は測光手段で、前記ファインダ光学系246の途中に配置された測光センサと該センサの出力増幅手段からなる。

【0037】次に本実施例における光学素子201の作用を説明する。奥行きのある被写体を撮影光学系230によりフィルム236上に結像させた時、合焦した被写体像は点像の集まりとして表わせるが、非合焦の被写体像、いわゆるアウトフォーカス画像は有限直径のボケ像の集合となる。そして、撮影光学系が無収差レンズであれば、該ボケ像は照度が均一の円形像となる。しかしながら、現実のレンズは種々の収差を有し、その結果ボケ像が乱れ、例えば二線ボケと呼ばれるような汚いボケ味を呈するレンズとなる。そこで、特開平9-236740号公報に開示されたように、撮影光学系の絞り近傍に、透過率が入射高と共に漸減するアボダイゼイションフィルタと呼ばれる光学素子を配置することで、違和感のない自然なボケ像を得ることを可能としているが、本実施例では、前記アボダイゼイションフィルタの役目を光学素子201で達成するものである。

【0038】図10は、図9に示した撮影装置241が有するCPU242の制御フロー図である。以下、図9及び図10を用いて撮影装置241の制御フローを説明する。ステップS201を経由して、ステップS202では、撮影者によりメインスイッチがオン操作されたか否かを判別し、オン操作されていない時はステップS202に留まる。ステップS202でメインスイッチがオン操作されたと判定されたら、CPU242はスリープ状態から脱してステップS203以降を実行する。ステップS203では、撮影者による撮影条件の設定を受け付ける。具体的には、撮影者は表示器251と操作スイッチ群252を用いて、露出制御モード（シャッター優先AE、プログラムAE等）、オートフォーカスモード（ワンショットAF、コンティニュアスAF等）、ドライブモード（単写、連写等）等を設定する。

【0039】ステップS204では、撮影者によるアボダイゼイション効果の選択を受け付ける。具体的には、

撮影者は表示器251と操作スイッチ群252にあるアボダイゼイション効果選択スイッチを用いて、アボダイゼイションレベルを選択する。具体的には、アボダイゼイションレベルは「1」から「3」までが選択可能で、レベルの数値が大きいほど、大きなアボダイゼイション効果が得られるようになっている。ステップS205では、前記ステップS204で選択されたアボダイゼイションレベルに対応する印加電圧が演算される。具体的には、レベル1が選択された時は光学素子201への印加電圧はV1に設定される。同様にレベル2が選択された時は印加電圧はV2に、レベル3が選択された時は印加電圧はV3に設定される。

【0040】ステップS206では、前記ステップS205で設定された電圧が、給電手段144より光学素子201に供給される。その結果、撮影者によりアボダイゼイションレベル1が選択された場合は、光学素子201の透過率分布は図8における印加電圧 $V=V1$ で示した曲線になる。同様にレベル2が選択されると印加電圧 $V=V2$ に相当する特性が、レベル3が選択されると印加電圧 $V=V3$ に相当する特性が得られる。ステップS207では、撮影者による撮影準備スイッチ（フロー図では、SW1と表記）のオン操作がなされたか否かを判別する。オン操作されていない時はステップS203に戻り、撮影条件の設定とアボダイゼイション効果の選択を繰り返し受け付ける。ステップS207で撮影準備スイッチがオン操作されたと判定されたら、ステップS207から脱してステップS211以降を実行する。

【0041】ステップS211では、測光手段256を用いて被写体輝度を検知する。ステップS212では、検知した被写体輝度とROMに記憶されたプログラム線図に基づいて、撮影時のシャッター秒時と絞り値を演算する。ステップS213では、焦点検出手段154を用いて撮影光学系230の焦点状態を検出する。続いてステップS214では、フォーカス駆動手段155により、第1レンズ群231を光軸方向に進退させて合焦動作を行なう。その後、ステップS215に進み、撮影スイッチ（フロー図では、SW2と表記）のオン操作がなされたか否かを判別する。オン操作されていない時はステップS207に戻り、測光からフォーカス駆動までのステップを繰り返し実行する。

【0042】以上のごとく、撮影準備動作を繰り返し実行している最中に、撮影者が撮影スイッチをオン操作すると、ステップS215からステップS231にジャンプする。ステップS231では、クイックリターンミラー247を撮影光束外に退避させる。ステップS232では、ステップS212で演算した絞り値に基づいて絞り234を絞り込み制御する。ステップS233では、ステップS212で演算したシャッター秒時に基づいてフォーカルプレキシッタ235を駆動制御する。ステップS234では、クイックリターンミラー247を撮影

光束内に復帰させると共に、絞り234も開放状態に復帰させる。ステップS235では、チャージ手段245を駆動してフォーカブレんシャッタ235を初期状態（羽根走行可能状態）にチャージすると共に、フィルム236を1駒分巻き上げ、ステップS236にて撮影動作が終了する。

【0043】上記したように、実施例2によると、
・光学素子へ入射する光束の入射高に応じて透過率が漸減し、かつ該光学素子への印加電圧を制御することで、透過率分布を所望の値に制御可能な透過率分布可変フィルタを得ることができる。

・当光学素子を撮影光学系の絞り機構近傍に配置することで、アウトフォーカス画像（いわゆるボケ画像）のボケ味を任意に制御でき、高品位画像を取得可能な撮影装置が得られる。等の点で優れた効果を奏することが可能な光学素子あるいは撮影装置を実現することができる。

【0044】〔実施例3〕前述の実施例1及び実施例2は、透過率を連続的に変化させるフィルタを構成した例について説明したが、実施例3は、透過率可変な光学素子を、光束を透過する状態と遮断する状態とに切り換える光シャッタとしてとして構成した例である。図11～図14は本発明の実施例3について説明するための図であり、図11は、本実施例において光学素子を光シャッタとして用いる場合の動作を詳しく説明するための図である。本実施例においては、第1の液体321に溶解する水溶性染料の濃度を、実施例1のものより大きくし、光吸収率を高めた構成になっている。それ以外の部材はすべて実施例1と同一機能、同一寸法を有する。従って同一部分は同一の番号にて示し、重複説明は省略する。

【0045】図11（a）は、光学素子301に接続された給電手段126の出力電圧が、ゼロあるいは非常に低いV1の場合を示す。この時の界面124の形状は図3（a）と同一で、第2の液体122が形成するレンズの底面の直径はA1、高さはh1である。また、第1の液体231の光軸上の厚さはt1である。L_{IN}は光学素子301の上方から照射され、絞り107の開口部に入射する光束である。そして本実施例では、第1の液体321の光吸収率が非常に高いため、第1の液体231の光軸上の厚さt1がかなり小さな場合でも、射出する光束の量はほぼゼロになる。

【0046】図11（b）は、給電手段126の出力電圧が、図3（c）のV3と同一の場合で、第2の液体122が形成するレンズの底面の直径はA3に縮まり、界面124の頂上はカバー板106の下面に形成された親水膜113に接触して平坦となる。そしてこの平坦部の直径は絞り板107の開口部の直径D3より大きい。その結果、透過率分布は絞り板107の開口径D3の内側では均一になる。その後、給電手段126の出力電圧を更に上昇させても、絞り板107の開口部内側の界面1

24の形状は変わらないため、当光学素子を光シャッタとして用いた場合の透過率は一定のままである。この時の透過率は、透明基板102、透明電極103、絶縁層104、撥水膜111、第2の液体122、親水膜113、カバー板106の透過率の積で表わされるが、上記各部材は透明材料が選択されるため、総合透過率は高く、すなわち光シャッタとしては開放状態を呈する。

【0047】図12は、光学素子301への印加電圧に対する光学素子301の光束透過率の関係を表わしたものである。印加電圧が低い時には透過率はほぼゼロ、印加電圧の増加に伴って透過率は急増し、印加電圧がV3に達したところで透過率は飽和する。そして、当光学素子を、印加電圧が極めて小さい状態で用いれば光束を遮断、印加電圧がV3の状態を用いれば光束を透過する光シャッタになる。

【0048】図13は、光学素子301を撮影装置に用いたものである。本実施例では、撮影装置341は実施例1と同様のデジタルスチルカメラを例として説明する。330は複数のレンズ群からなる撮影光学系で、第1レンズ群331、第2レンズ群332、第3レンズ群333で構成され、それぞれの機能は図5の第1実施例の撮影装置における各レンズ群131、132、133と同一である。そして、第2レンズ群332と第3レンズ群333の間に光学素子301が配置され、その後方にはステップモータを駆動源とした機械式絞り機構334が配置される。その他の部材の構成は実施例1と同一のため、同一部材は同一の符号で表わして説明は省略する。本実施例では、光シャッタ部材としての光学素子301とは別に、機械式絞り機構334を用いているが、これは撮影光束の光量微調節機能と、光束の透過、遮断切り換え機能を別の部材で実現させるためである。

【0049】図14は、図13に示した撮影装置341が有するCPU342の制御フロー図である。以下、図13及び図14を用いて撮影装置341の制御フローを説明する。ステップS301を経由して、ステップS302では、撮影者によりメインスイッチがオン操作されたか否かを判別し、オン操作されていない時はステップS302に留まる。ステップS302でメインスイッチがオン操作されたと判定されたら、CPU342はスリープ状態から脱してステップS303以降を実行する。

【0050】ステップS303では、撮影者による撮影条件の設定を受け付ける。具体的には、撮影者は表示器151と操作スイッチ群152を用いて、露出制御モード（シャッター優先AE、プログラムAE等）、オートフォーカスモード（ワンショットAF、コンティニュアスAF等）、ドライブモード（単写、連写等）、画質モード（記録画素数の大小、画像圧縮率の大小等）等を設定する。ステップS304では、撮影者による撮影準備スイッチ（フロー図では、SW1と表記）のオン操作がなされたか否かを判別する。オン操作されていない時は

ステップS303に戻り、撮影条件の設定を繰り返し受け付ける。ステップS304で撮影準備スイッチがオン操作されたと判定されたら、ステップS304から脱してステップS311以降を実行する。ステップS311では、給電手段144の出力電圧をV3に制御し、光学素子301に該電圧V3を印加する。すると図12で説明したごとく、光学素子301は透過率が最大、すなわち光スイッチが開放の状態となり、撮影光学系内を撮影光束が通過する。ステップS312では、撮像手段134及び信号処理回路145を駆動して、プレビュー画像を取得する。

【0051】ステップS313では、ステップS312で取得したプレビュー画像の受光レベルを認識する。具体的には、撮像手段134が出力する複数の画素信号において、最高、最低及び平均の出力信号レベルを演算し、撮像手段134に入射する光量を認識する。ステップS314では、前記ステップS313で判定した受光量が適正か否かを判別する。そして、当ステップで適正と認識されたら、ステップS315に進む。ステップS315では、ステップS312で取得したプレビュー画像を表示器151に表示する。続いてステップS316では、焦点検出手段154を用いて撮影光学系330の焦点状態を検出する。続いて、ステップS317では、フォーカス駆動手段155により、第1レンズ群331を光軸方向に進退させて合焦動作を行なう。

【0052】その後、ステップS318に進み、撮影スイッチ（フロー図では、SW2と表記）のオン操作がなされたか否かを判別する。オン操作されていない時はステップS311に戻り、プレビュー画像の取得からフォーカス駆動までのステップを繰り返し実行する。一方ステップS314において、前記ステップS313で判定した受光量が適正でないと判別されたら、ステップS321にジャンプする。ステップS321では、実際の受光量と適正な受光量を比較し、撮影光学系330内の絞り手段334の開口径を増減させる。ステップS321実行後はステップS312に戻り、撮像手段134に入射する光量が適正になるまで、プレビュー画像の取得から絞り開口制御までのステップを繰り返し実行する。そして、撮像手段134に入射する光量が適正になると、ステップS314からステップS315に移行する。

【0053】以上のごとく、撮影準備動作を繰り返し実行している最中に、撮影者が撮影スイッチをオン操作すると、ステップS318からステップS331にジャンプする。ステップS331では撮像を行なう。すなわち撮像手段134上に結像した被写体像を光電変換し、光学像の強度に比例した電荷が各受光部近傍の電荷蓄積部に蓄積される。ステップS332では、給電手段144の出力電圧をゼロに制御し、光学素子301への電圧印加を解除する。すると、図12で説明したごとく、光学素子301は透過率が最小の状態となり、撮影光学系内

を通過する光束が遮断される。ステップS333では、ステップS331で蓄積された電荷を電荷転送ラインを介して読み出し、読み出しされたアナログ信号を信号処理回路145に入力させる。ここで一般に、撮像手段が蓄積電荷を転送する際、受光部に光が照射されていると画像信号に有害なノイズが発生し易いが、本実施例では上記ステップS332において、電荷転送中は光学素子301が光束を遮断しているため、画像に有害なノイズが載ることを避けられる。S334では、信号処理回路145において、入力したアナログ画像信号をA/D変換し、AGC制御、ホワイトバランス、γ補正、エッジ強調等の画像処理を施し、さらに必要に応じてCPU342内に記憶された画像圧縮プログラムでJPEG圧縮等を施す。ステップS335では、上記ステップS131で得られた画像信号をメモリ156に記録し、ステップS336にて撮影動作が終了する。

【0054】上記したように、実施例3によると、
・光学素子への印加電圧を制御することで、光束を透過状態と遮断状態とに切り換える光シャッタを得ることができる。
・当光学素子を撮影光学系の機械式シャッタ機構の代わりに用いることで、シャッタ羽根やシャッタ羽根駆動機構等のメカニカル手段を廃止でき、撮影装置の小型化が達成できる。等の点で優れた効果を奏することが可能な光学素子あるいは撮影装置を実現することができる。

【0055】〔実施例4〕前述の実施例2は、光学素子に入射する光束の入射高が大きいほど透過率が漸減するアポダイゼーションフィルタとして用いる例について説明したが、実施例4は、光学素子へ入射する光束の入射高に応じて透過率が漸増し、かつ該光学素子への印加電圧を制御することで、透過率分布を所望の値に制御可能な透過率分布可変フィルタとして用いる実施例について説明する。図15～図18は、本発明の実施例4について説明するための図であり、図15は本実施例における光学素子を透過率分布可変フィルタとして用いる場合の動作を詳しく説明するための図である。

【0056】本実施例においては、光学素子401が有する第1の液体421と第2の液体422の性質が、実施例1～実施例3の各液体と相違する点が異なる。まず、実施例1～実施例3において、第1の液体121には水溶性の染料が加えられたが、本実施例の第1の液体421には該染料が加えられず、透明である。また、実施例1～実施例3において、第2の液体122は透明であったが、本実施例の第2の液体422には油脂に溶解する染料が所定濃度加えられる。該染料は、キレートアゾ顔料やニトロソ顔料が好適である。

【0057】一般に該顔料は、ブルー、イエロー、レッド等に色づけされているため、これらを所定比率で混合すれば無彩色顔料が得られる。それ以外の部材はすべて実施例1～実施例3と同一機能、同一寸法を有する。従

って同一部分は同一の番号にて示し、重複説明は省略する。また、絞り207は実施例2の絞り207と同一の開口径D4を有する。

【0058】図15(a)は、光学素子401に接続された給電手段126の出力電圧が、ゼロあるいは非常に低いV1の場合を示す。この時の界面124の形状は図7(a)と同一で、第2の液体422が形成するレンズの底面の直径はA1、高さはh1である。また、第1の液体の光軸上の厚さはt1である。L_{IN}は光学素子401の上方から照射され、絞り207の開口部に入射する光束、L_{OUT}は光学素子401から射出される光束である。そして、本実施例では、レンズ形状を呈する液体422は所定の光吸収率を有するため、射出光束L_{OUT}の光量分布は均一にはならず、光軸123上での光透過率が最小で、光軸123から離れるに従って透過光量は増加する。図15(b)は、給電手段126の出力電圧が、V1より大きなV2の場合を示す。この時、第2の液体422が形成するレンズの底面の直径はA2、高さはh2であり、透過光量平均値は同図(a)より小さくなると共に、透過光量の不均一性も拡大する。

【0059】図15(c)は、給電手段126の出力電圧が、V2より更に大きなV3の場合を示す。この時、第2の液体122が形成するレンズの底面の直径はA3に縮まり、界面124の頂上はカバー板106の下面に形成された親水膜113に接触して平坦となる。そして、この平坦部の直径は絞り207の開口部の直径D4よりは小さい。その結果、透過率は該平坦部の内側領域は均一になり、外側領域では光軸からの距離に応じて漸増する。この時の入射高ゼロにおける透過率は、透明基板102、透明電極103、絶縁層104、撥水膜111、第2の液体422、親水膜113、カバー板106の透過率の積で表わされるが、第2の液体422の光吸収率が支配的になる。

【0060】図16は、給電手段126から光学素子401に印加される電圧をパラメータとして、光学素子401に入射する光束の入射高(光軸123からの距離)に対する透過率分布の関係を表わしたものである。印加電圧の増加に伴い、平均透過率が減少すると共に、入射高に応じて透過率が漸増する透過率曲線の傾き絶対値は増加する。

【0061】図17は、光学素子401を撮影装置に応用したものである。本実施例では、実施例2と同じく、撮影装置441は静止画像を銀塩フィルムに露光する、いわゆる銀塩スチルカメラを例として説明する。430は複数のレンズ群からなる撮影光学系で、第1レンズ群431、第2レンズ群432、第3レンズ群433で構成され、それぞれのレンズは図9の実施例2の撮影装置241における各レンズ群231、232、233とパワー構成は異なるが、機能は同一である。そして、第2レンズ群432と第3レンズ群433の間にはステップ

モータを駆動源とした機械式絞り機構434が配置され、第3レンズ群433の後方には光学素子401が配置される。撮影光学系230の焦点位置には、銀塩フィルム236が配置され、その直前にはフォーカルブレンシャッタ235が配置される。これ以外の構成は実施例2の撮影装置241と同一なので、説明は省略する。

【0062】次に、本実施例における光学素子401の作用を説明する。撮影光学系430によりフィルム236上に結像される被写体像の照度は、中心が大きく、中心から離れるほど低下する、いわゆる周辺光量低下現象を呈する。そしてこの時の周辺光量低下量は、撮影光学系のズーム状態と絞り込み状態でほぼ一義的に決まる。一方、光学素子401の入射高に対する透過率分布は、図16で説明したように、印加電圧により一義的に決まる。そこで、光学素子401を撮影光学系中の適当な位置に置き、ズーム状態と絞り込み状態で決まる周辺光量低下量を補償する透過率分布を光学素子401に与えることで、フィルム面236上の画像の周辺光量低下を適正に補償できる。具体的には、撮影装置441の製造時に、各ズーム状態と絞り込み状態に応じた周辺光量低下データと、これを補償するために最適な光学素子401への印加電圧を実験的に決定する。そして、各ズーム状態と絞り込み状態に応じた印加電圧をCPU442内のROMにルックアップテーブルとして記憶させ、撮影時に該テーブル値を呼び出して光学素子401への印加電圧を制御すればよい。

【0063】図18は、図17に示した撮影装置441が有するCPU442の制御フロー図である。以下、図17及び図18を用いて撮影装置441の制御フローを説明する。ステップS401を経由して、ステップS402では、撮影者によりメインスイッチがオン操作されたか否かを判別し、オン操作されていない時はステップS402に留まる。ステップS402でメインスイッチがオン操作されたと判定されたら、CPU442はスリープ状態から脱してステップS403以降を実行する。ステップS403では、撮影者による撮影条件の設定を受け付ける。具体的には、撮影者は表示器251と操作スイッチ群252を用いて、露出制御モード(シャッター優先AE、プログラムAE等)、オートフォーカスモード(ワンショットAF、コンティニユアスAF等)、ドライブモード(単写、連写等)等を設定する。

【0064】ステップS404では、撮影者による撮影準備スイッチ(フロー図では、SW1と表記)のオン操作がなされたか否かを判別する。オン操作されていない時はステップS403に戻り、撮影条件の設定を繰り返し受け付ける。ステップS404で撮影準備スイッチがオン操作されたと判定されたら、ステップS404から脱してステップS411以降を実行する。ステップS411では、撮影光学系430のズーム状態を認識する。ステップS412では、測光手段256を用いて被写体

輝度を検知する。ステップS 4 1 3では、検知した被写体輝度とROMに記憶されたプログラム線図に基づいて、撮影時のシャッタ秒時と絞り値を演算する。

【0065】ステップS 4 1 4では、前記ステップS 4 1 1で認識した撮影光学系4 3 0のズーム状態とステップS 4 1 3で演算した撮影時の絞り値に基づいて、光学素子4 0 1に印加する電圧をROMに記憶されたルックアップテーブルから呼び出す。ステップS 4 1 5では、前記ステップS 4 1 4で呼び出された電圧が、給電手段1 4 4より光学素子4 0 1に供給される。その結果、撮影光学系4 3 0の周辺光量低下が補償される。ステップS 4 1 6では、焦点検出手段1 5 4を用いて撮影光学系4 3 0の焦点状態を検出する。続いてステップS 4 1 7では、フォーカス駆動手段1 5 5により、第1レンズ群4 3 1を光軸方向に進退させて合焦動作を行なう。その後、ステップS 4 1 8に進み、撮影スイッチ（フロー図では、SW 2と表記）のオン操作がなされたか否かを判別する。オン操作されていない時はステップS 3 1 1に戻り、ズーム状態認識からフォーカス駆動までのステップを繰り返し実行する。

【0066】以上のごとく、撮影準備動作を繰り返し実行している最中に、撮影者が撮影スイッチをオン操作すると、ステップS 4 1 8からステップS 4 3 1にジャンプする。ステップS 4 3 1では、クイックリターンミラー2 4 7を撮影光束外に退避させる。ステップS 4 3 2では、ステップS 4 1 3で演算した絞り値に基づいて絞り4 3 4を絞り込み制御する。ステップS 4 3 3では、ステップS 4 1 3で演算したシャッタ秒時に基づいてフォーカルプレレンシャッタ2 3 5を駆動制御する。ステップS 4 3 4では、クイックリターンミラー2 4 7を撮影光束内に復帰させると共に、絞り4 3 4も開放状態に復帰させる。ステップS 4 3 5では、チャージ手段2 4 5を駆動してフォーカルプレレンシャッタ2 3 5を初期状態（羽根走行可能状態）にチャージすると共に、フィルム2 3 6を1駒分巻き上げ、ステップS 4 3 6にて撮影動作が終了する。

【0067】上記したように、実施例4によると、
・光学素子へ入射する光束の入射高に応じて透過率が漸増し、かつ該光学素子への印加電圧を制御することで、透過率分布を所望の値に制御可能な透過率分布可変フィルタを得ることができる。

・当光学素子を撮影光学系の所定位置に配置することで、撮影光学系の周辺光量低下を軽減でき、高品位画像を取得可能な撮影装置が得られる。等の点で優れた効果を奏することが可能な光学素子あるいは撮影装置を実現することができる。

【0068】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、エレクトロウエットティング現象を利用して、メカニカル機構を用いることなく、入射光束の透過率を効率的に自

在に変化させる光学素子を得ることができ、従来のものとは異なる方式の小型で簡単な構成の光学素子あるいは撮影装置を実現することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例1の光学素子の断面図である。

【図2】本発明の実施例1の光学素子に電圧を印可した時の動作説明図である。

【図3】本発明の実施例1の光学素子の動作説明詳細図である。

【図4】本発明の実施例1の光学素子の透過率説明図である。

【図5】本発明の実施例1の撮影装置の構成図である。

【図6】本発明の実施例1の撮影装置の制御フロー図である。

【図7】本発明の実施例1の光学素子の動作説明詳細図である。

【図8】本発明の実施例2の光学素子の透過率分布説明図である。

【図9】本発明の第2実施例2の撮影装置の構成図である。

【図10】本発明の実施例の撮影装置の制御フロー図である。

【図11】本発明の実施例3の光学素子の動作説明詳細図である。

【図12】本発明の実施例3の光学素子の透過率説明図である。

【図13】本発明の実施例3の撮影装置の構成図である。

【図14】本発明の実施例3の撮影装置の制御フロー図である。

【図15】本発明の実施例4の光学素子の動作説明詳細図である。

【図16】本発明の実施例4の光学素子の透過率分布説明図である。

【図17】本発明の実施例4の撮影装置の構成図である。

【図18】本発明の実施例4の撮影装置の制御フロー図である。

【図19】エレクトロウエットティング現象を説明するための電圧の印加前、印加後の液滴の変化を示す図である。

【符号の説明】

1 0 1、2 0 1、3 0 1、4 0 1：光学素子

1 0 2：透明基板

1 0 3：透明電極

1 0 4：絶縁層

1 0 7：絞り板

1 1 1：撥水膜

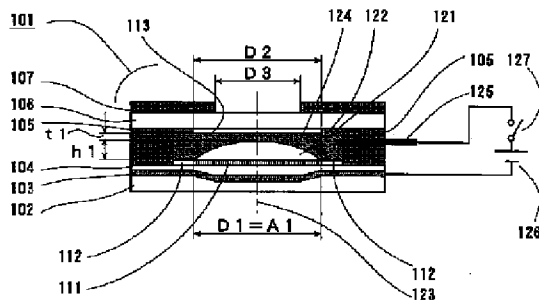
1 1 2：親水膜

1 1 3：親水膜

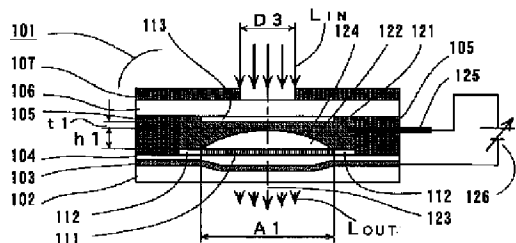
1 2 1、4 2 1：第1の液体
 1 2 2、4 2 2：第2の液体
 1 2 3：光軸
 1 2 4：界面
 1 2 5：棒状電極
 1 2 6：給電手段
 1 3 0、2 3 0、3 3 0、4 3 0：撮影光学系
 1 3 4：撮像手段

2 3 5：フォーカルプレキシッタ
 2 3 6：フィルム
 1 4 1、2 4 1、3 4 1、4 4 1：撮影装置
 1 4 2、2 4 2、3 4 2、4 4 2：CPU
 2 3 4、4 3 4：機械式絞り機構
 1 4 4：給電手段
 1 5 1、2 5 1：表示器
 1 5 2、2 5 2：操作スイッチ群

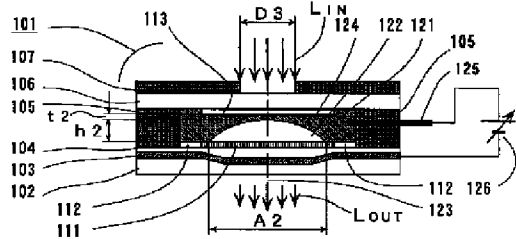
【図 1】



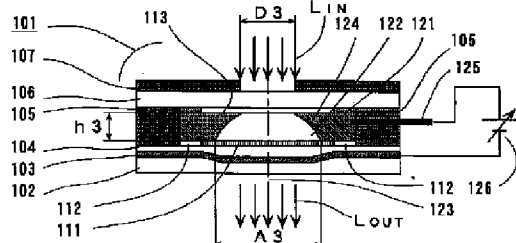
【図 3】



(a) 印可電圧 $V=V_1$

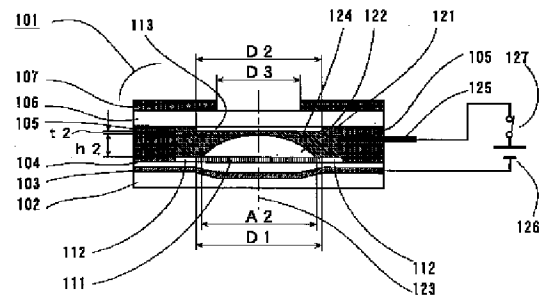


(b) 印可電圧 $V=V_2$

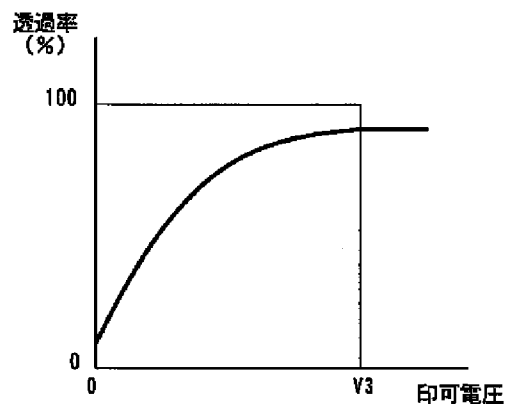


(c) 印可電圧 $V=V_3$

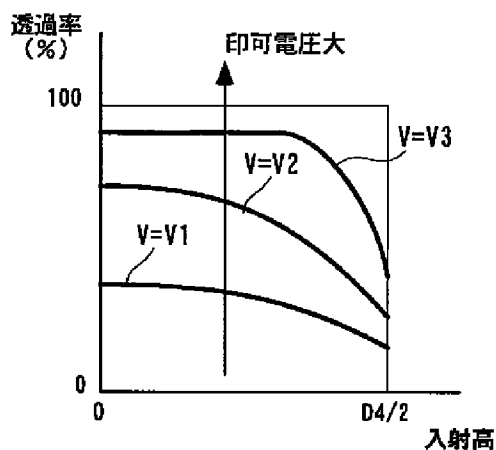
【図 2】



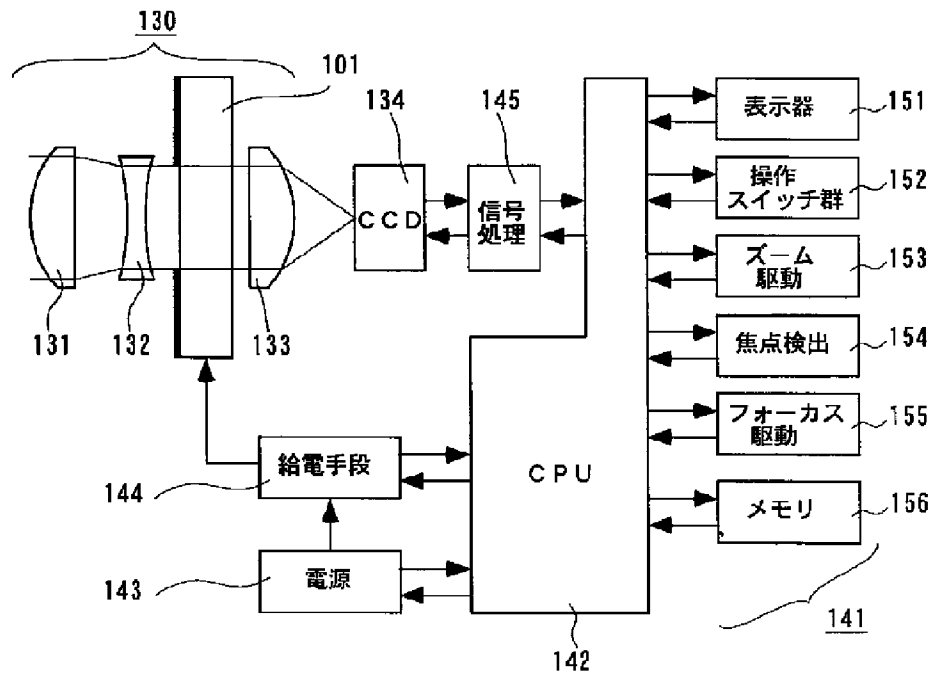
【図 4】



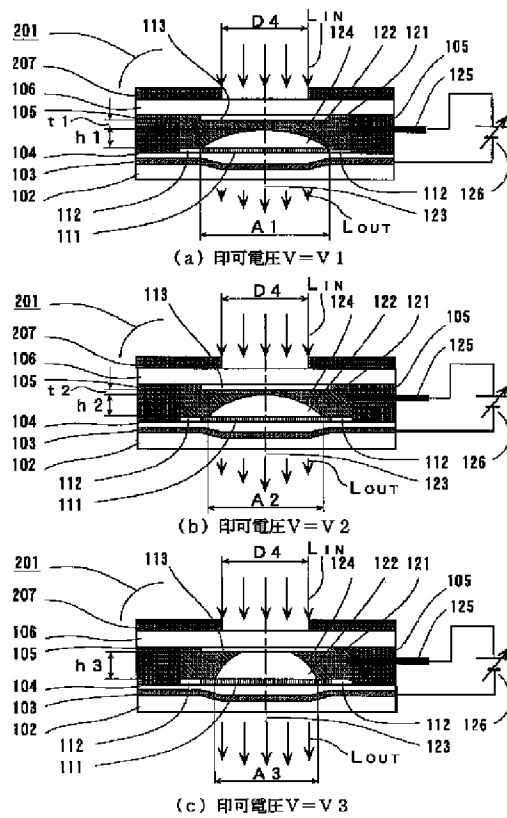
【図 8】



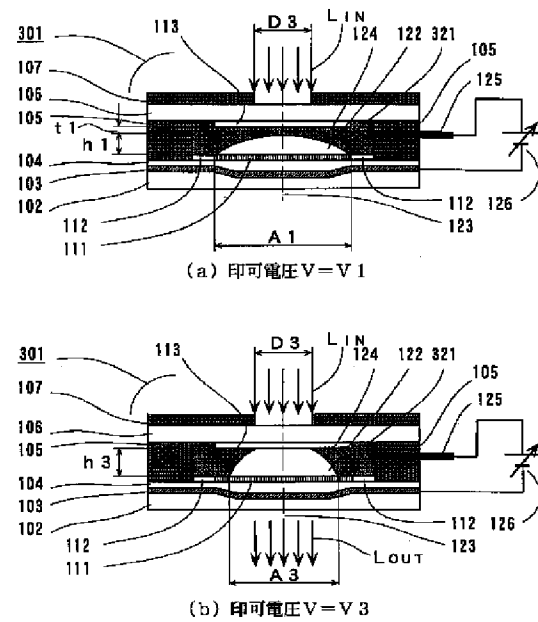
【図5】



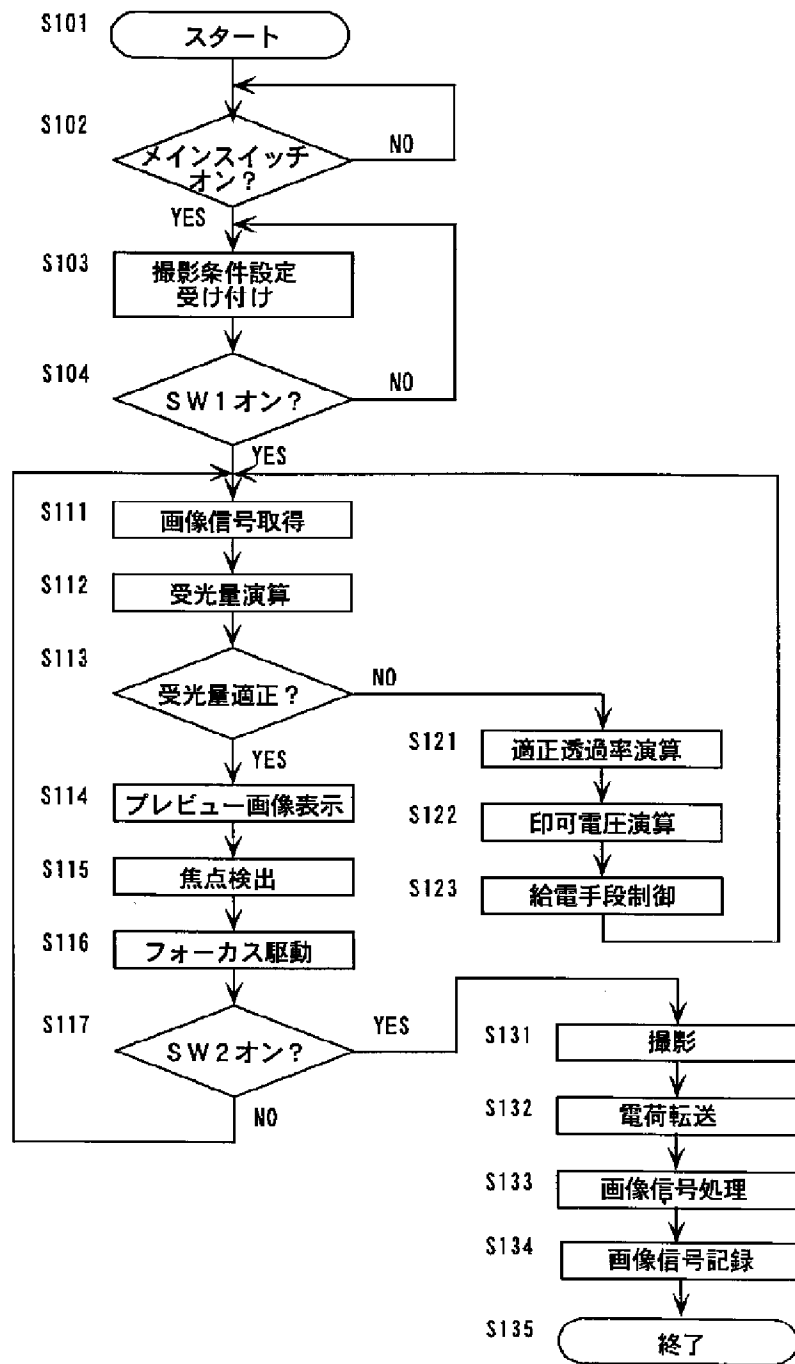
【図7】



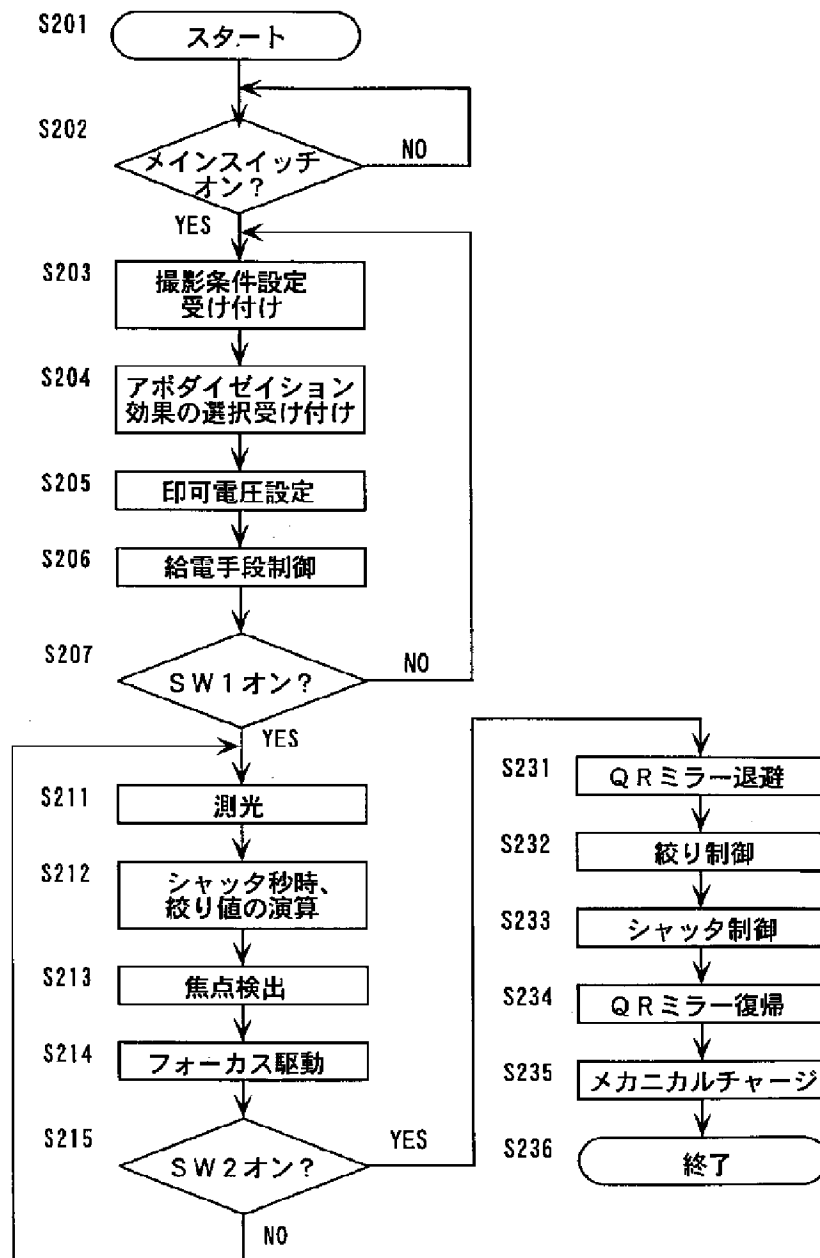
【図11】



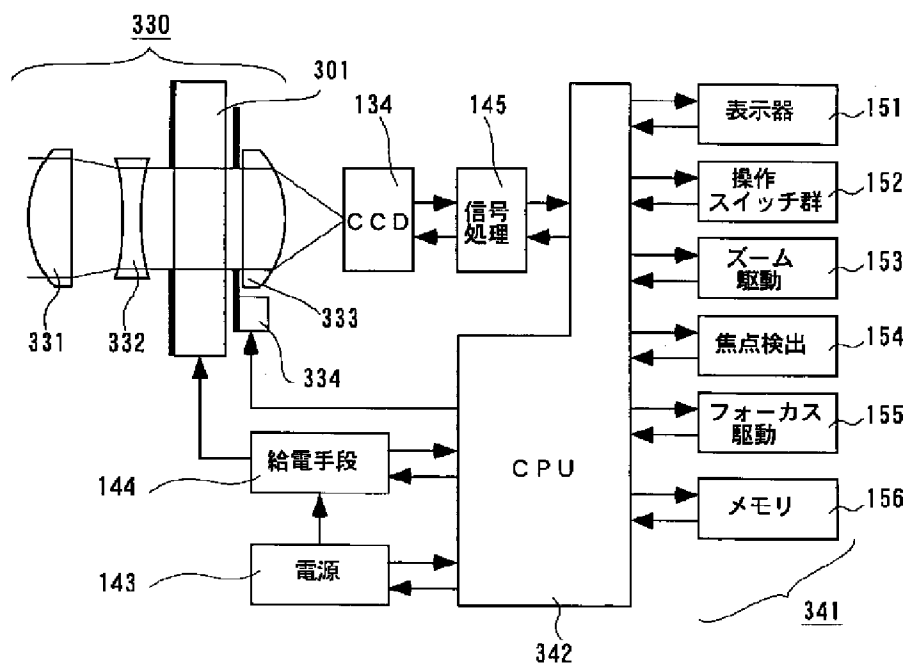
【図6】



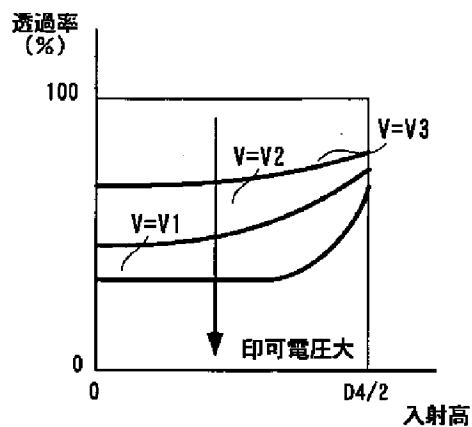
【図10】



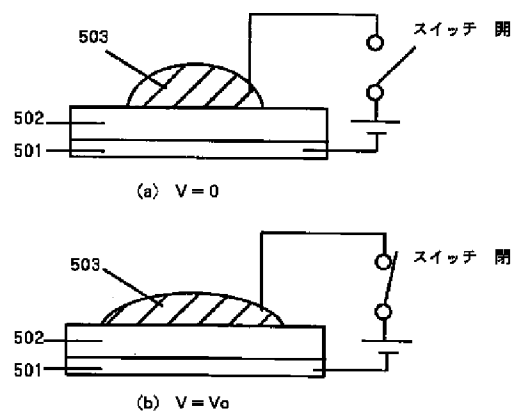
【図13】



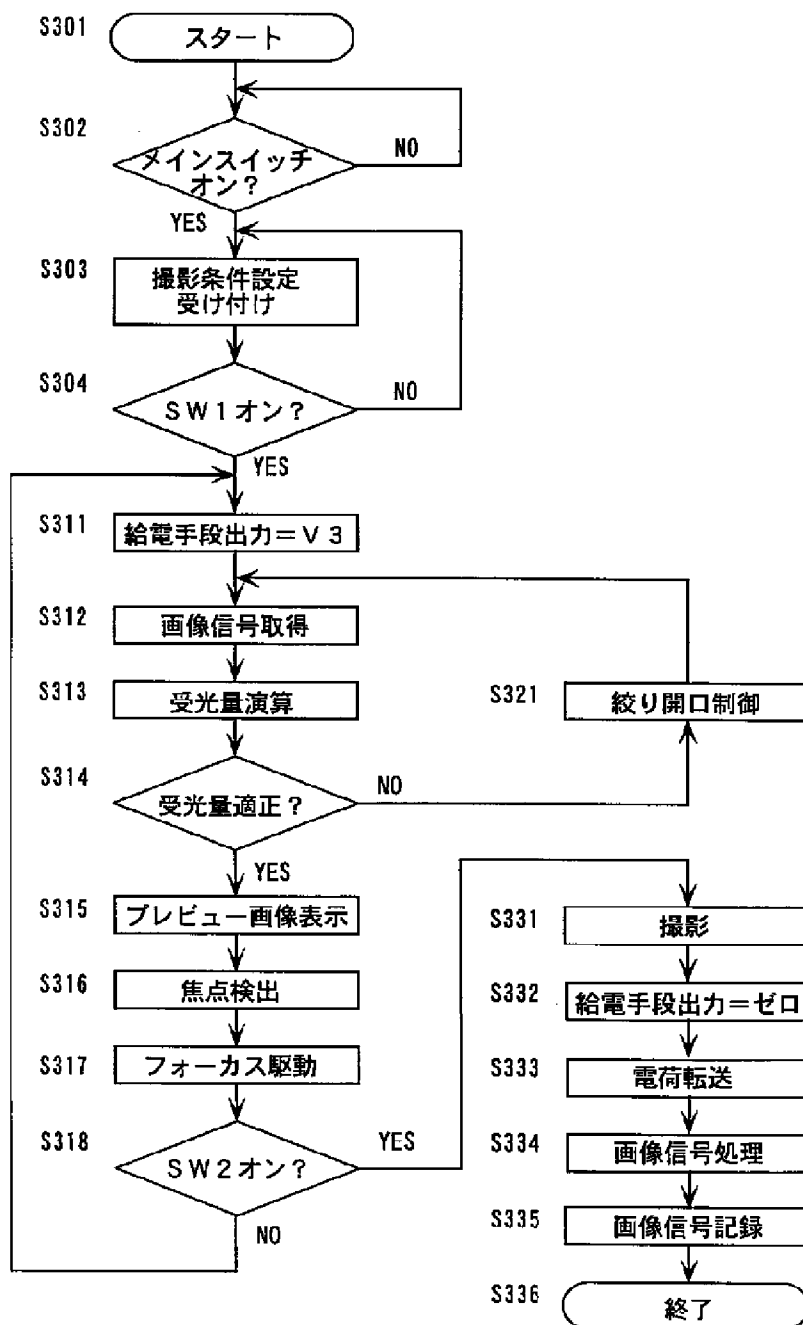
【図16】



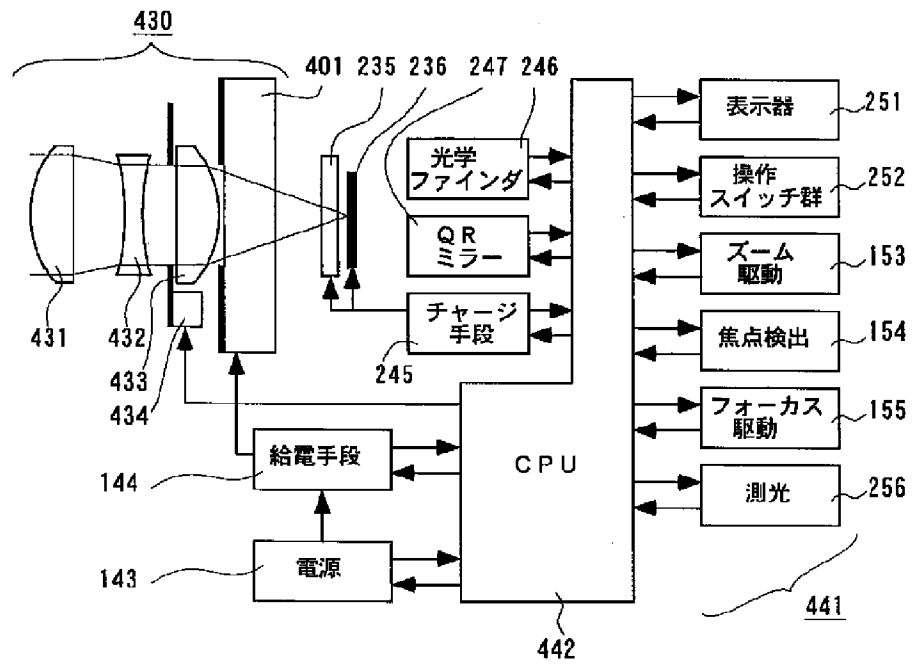
【図19】



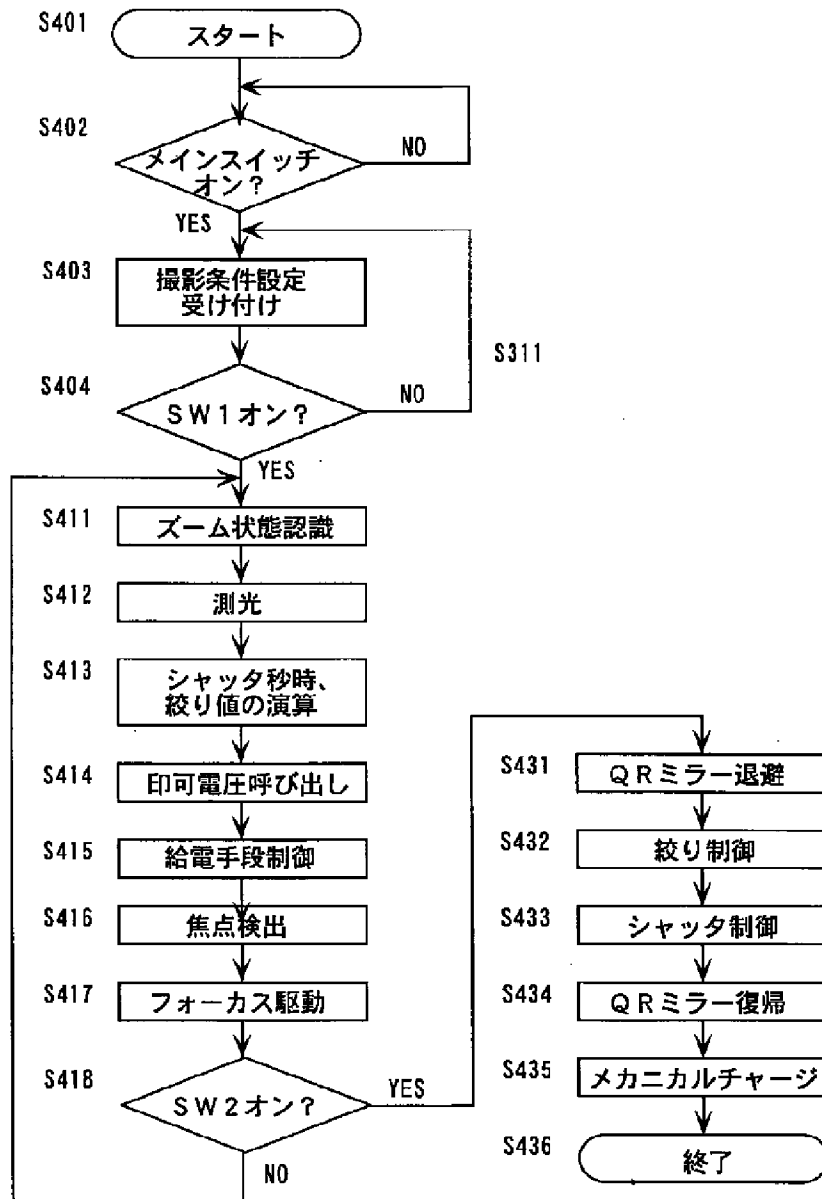
【図14】



【図17】



【図18】



フロントページの続き

(72)発明者 小倉 栄夫
東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
ノン株式会社内

Fターム(参考) 2H083 AA05 AA10 AA14 AA32 AA53